

穂 落ち

早いもので、二〇〇九年もそろそろ始まるようになっている。つまり、私の連載も終わるというわけです。ホッとしている人が私以外にいないと良いのですが…。興味深いところですよ。

人の善意を感じられなくなる(自己中心的で感謝する能力のない)病気、薬物依存症になって、いやなことが故に気付ける感謝があるというパラドックスをこの原稿を書き、今更ながらかみしめています。私は薬物依存症本人の骨をも砕く苦しみを知っています。同時に、再生の喜び、心はずむ希望も味わっているのです。嘘は自分がマズイと思っ

す。自分がマズイと思っただけで嘘をつく必要はないのです。私は恵まれていると思います。刑務所に収監された時には、その事が良かったと思える日が来るとは思いも

人の善意を感じて

三浦 陽一
(沖縄タルク・チーフディレクター)

院に入院したことについては恥ずかしくて話せる人は皆無かったです。その私が、嘘をつかなくて良い居場所をここ美ら島・沖縄に与えられたのです。感謝という言葉は自分が感

よらなかつたですし、人には話せない秘密として、嘘をつき続けるしか生きるすべはないものだと思ひ込んでいたのです。刑務所に関しては悪友には話せましたが、こころ精神科病

謝している時に使う言葉で人に対して使うと、極端に醜くなります。けれども私のような薬物依存症者でもエッセーを書く機会が与えられたり、それを読んで下さって応援して下さる人がいらっしやると

いうニュースがダルクに集う薬物依存症の仲間達に伝われば、なくした一人の善意を感じる能力」を取り戻す事(感謝する事)となり、回復に役立てることができるようになります。

最終回と言ったこともあって、ここで、普段から支えて下さっている、受け入れて下さっている皆様にきちんとお伝えする事がございます。「沖縄に居れて良かったです。沖縄で薬物依存症者は愛されています。生まれ変わった後も薬物依存症になりたいとは思いませんが、私は薬物依存症になって良かったと思いません。今更でありがとうございました。そして、これからもありがとうございます」